

大学等名：京都外国語大学

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・テーマⅡ（学修成果の可視化）複合型

授業内と授業外の学修を有機的に結合させ、語学教育に適した「反転授業型のアクティブ・ラーニング」を開発・実践する。さらに、将来の職業に繋げるキャリア科目群で課題解決型学習（PBL）を行い、人間力を育む。

これらの学修のプロセス及び成果は、現存の「学生サポートシステム」に新たな機能を付加し、様々なデータを包括的に把握することによって、一層効果的な可視化を実現する。学習行動や目標の達成状況を学生自身が段階的に確認する自己分析システムと、客観的な評価も加えたモニタリングシステムを活用し、教職員が協働して学生の自律的な成長を支援する。

### アクティブ・ラーニング

反転授業型  
アクティブ・ラーニング



グローバル化を目指す大学の教養課程における語学教育の授業モデル

「目標設定→実行→振り返り」のサイクルを学生自らが理解・実践できるよう支援。  
予習復習サポート・ソーシャルラーニング機能を有する自己調整学習支援システムをWeb上で開発し、学習計画表を作成させ、学習ログで学修量を把握。

### 人間力を育む課題解決型学習の実践

- ★キャリア系科目群でのアクティブ・ラーニング
- ★次世代リーダー育成プログラムでのアクティブ・ラーニング



グローバル社会で通用する語学力と人間力の養成

### 学修成果の可視化



4年間の取組による学生の成長過程を把握し、教育改善に活かす。

### 【事業の成果】

	26年度(実績)	28年度(目標値)	30年度(目標値)
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	83.3% (平成25年度)	82.0% (割合は変わらない)	82.0% (割合は変わらない)
反転授業型アクティブ・ラーニングの語学の授業を受講する学生の割合	14.9%	44.4%	66.7%
学生の授業外学修時間	4.9時間 (平成25年度)	6.0時間	6.5時間

○本事業で開発する外国語授業モデルは、学生の主体的な学修時間を質・量ともに実質的に増加させる。また、本モデルは本学のみならずグローバル化を目指す大学の教養課程における語学教育の授業モデルとなる。

○学生と教員・職員が協働して「学び」の環境を創りあげ、IRによる多面的な調査及び分析によって学修成果の可視化を推進する。これらによって、大学全体の教育の質保証への取組みが加速される。